

雲南消防本部
消防長 障子弘敏

平成25年の輝かしい新春を迎え、謹んで
お喜び申し上げます。

地域住民の皆様をはじめ、関係機関の皆様には、平素より消防行政各般にわたり、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、7月には九州地方から西日本に掛けて、梅雨前線による豪雨で、土砂崩れ、洪水などが発生し、多数の人的被害、住家被害が発生しました。この豪雨により自然災害の驚異を身近に痛感させられました。

こうした大雨による人的被害は、普段からの災害に対しての研修や備えにより防ぎ得ることが可能であります。

自然災害は、いつ、どこで発生してもおかしくない状況であり、改めて日ごろからの災害への備えについて重要性を認識し、一層防災への関心を深めていただきたいと思っております。

一方、5月に広島県福山市で発生したホテル火災では、建築基準法及び消防法違反により7名の死者を出す痛ましい事態となりました。

防火対象物の点検及び指導を行う行政機関として、こうした火災の発生を防止する

ために、さらに指導体制の充実強化を図り、安心・安全の確保を目的に適切な対応を執つていく所存であります。

雲南管内の昨年の出動状況は、火災出動が24件、救急出動が2,189件、救助出動が70件であり、火災については前年比較で8件の減少となりました。これは、建物火災の9件の減少によるものであります。

救急出動は、過去最も多い前年に比べ63件減少しました。

本年3月には、中国横断自動車道尾道松江線のさらなる延長により広島県三次市まで開通しますが、これにともない一般車両はもとより大型観光バス等の増加が予想され、昨年の4月に発生した関越自動車道大型バス単独事故の様な多数傷病者の発生も懸念されるところであります。

こうした災害に対し、さらに災害対応能力の向上を図り、住民の皆様の信頼と期待に応えるため、防災体制の充実強化にむけて積極的に取り組んで参りますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が災害の無い明るい年となりますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

救急救命機器が寄贈されました

10月26日(金)、雲南農業協同組合から当消防本部へ救急救命機器が寄贈されました。救急救命機器は、高度救急処置の実習用人形2体と、心肺蘇生法講習会用の訓練人形2体で、職員の救急技術の向上並びに住民への応急手当の普及啓発活動に活用させていただきます。消防本部で行われた贈呈式では、吾郷生善代表理事組合長から影山喜文副管理者に目録が渡されました。



高度救急処置実習用人形

心肺蘇生法講習会用訓練人形

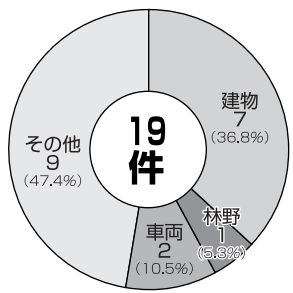
火災・救急・救助統計

出動件数

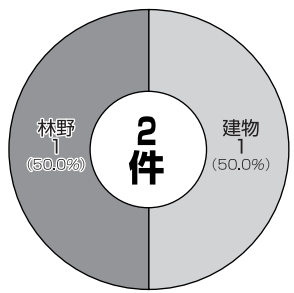
平成24年1月1日
～12月31日

火災出動 24件

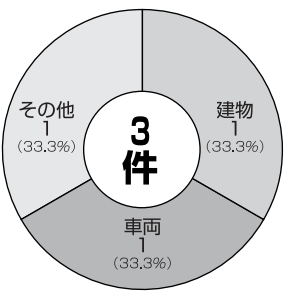
平成23年 32件



雲南市



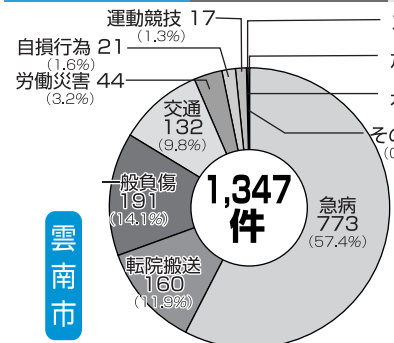
奥出雲町



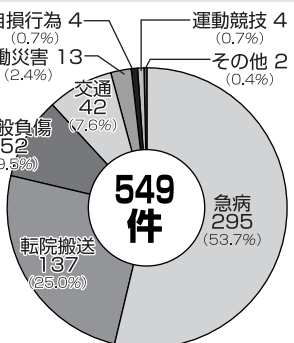
飯南町

救急出場 2,189件

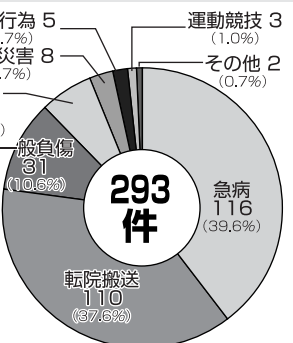
平成23年 2,252件



雲南市



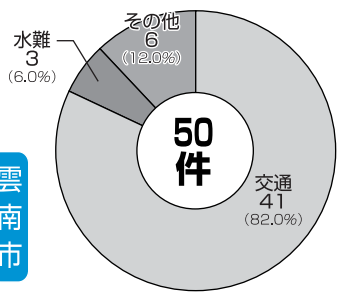
奥出雲町



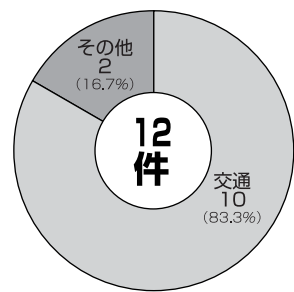
飯南町

救助出動 70件

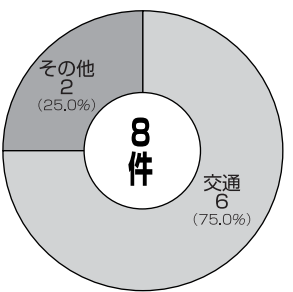
平成23年 53件



雲南市



奥出雲町



飯南町

平成24年中の火災は24件発生し、平成23年と比較すると8件の減少となりました。これは建物火災が減少したことによるものです。しかしその反面、火気の不適切な取り扱いや、ちょっとした不注意や油断から火災につながったものが10件を占めています。火を取り扱う時は、その場を離れない、消火器具を準備するなど火災予防を心がけましょう。

救急件数については2,189件で、昨年より63件減少しました。このうち、ドクターヘリへの搬送は164件で、雲南地区が最も多く利用し、県内の搬送件数の約25%を占めています。これにともない、消防車両での地上支援も行っています。

救助件数については、平成23年と比較すると交通事故が多発したため17件増加しています。

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

春の火災予防運動3月1日～7日(奥出雲町 4月7日～13日)

